

# カ タ リ ナ

学報

第34号



St. Catherine University

聖カタリナ大学 / 聖カタリナ大学短期大学部

2015. 6. 1



聖カタリナ大学第28回

聖カタリナ大学短期大学部第50回 入学式式辞

学長 ホビノ・サンミゲル



春はとても美しい季節です。本学のキャンパスは毎年このとき、綺麗な花で飾られます。しかし、より印象的なのは桜の花です。桜の花の美しさは私たちの人生を喜びと希望で満たしてくれます。この美しい季節、本日、287名の優秀な若者を本学に迎え、希望に満ちた、人生の春を共に祝うことができることを喜んでおります。

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。また、遠く台湾、韓国から来た留学生の皆さんとも、同じ喜びを分かち合いたいと思います。できるだけ早く日本の生活に慣れて、皆さんの日本へやってきた目的が達せられるようお祈りいたします。

本日から入学生の皆さんは、聖カタリナ大学の家族となりました。私たちの心は喜びでいっぱいになっています。大きな期待を持って教職員一同、皆さんを温かく迎えたいと思います。

また、高松教区司教ヨハネ諏訪榮治郎様を始め、ご来賓の皆様には、ご多忙にもかかわらずこの良き日にご列席くださりまして心より御礼申し上げます。特に、今日は司教様にとってとても忙しい日です。今日は、キリスト教会では聖金曜日です。すなわちイエス・キリストが亡くなられた記念日ですので、復活祭に向けて教会の行事が多いため、すぐ高松にもどらなければなりません。お忙しいところ本当にありがとうございます。

また、保護者の皆様、本日はまことにおめでとうございます。今日までお子様を支えてこられました

ことに感謝の気持ちを表したいと思います。そして本日、彼らとこのよき日の喜びを分かち合うためにお越しくださいませまことにありがとうございます。

さて、新入生の皆さん。皆さんは人生の新しい道を歩もうとしています。本学は皆さんにより教育を与えるために準備を整えています。そして皆さんが目指している目標に達するために教職員一同全力を尽くしたいと思います。

本学は、カトリック教会の大学として全人間を形成するという使命を持っています。全人間と言いますと、知識や物質的な面だけではなく、精神的な面も含んでいます。現代において、人間のいのちは自然科学と医学のすばらしい進歩によって、長く保たれるようになりました。先進国の平均寿命は、いまや100才に近づこうとしています。しかし人間は長く生きるだけでは、必ずしも幸せな人生を過ごしたとは言えません。人間のいのちは体と心を持っており、また人間は物質的存在であるだけではなく、霊的、精神的な存在でもあるからです。私たちが、本当の意味で幸せになるためには、人生における健全な土台づくり、言い換えれば、人間としての基礎づくりには、学問的な知識だけではなく、精神的、倫理的、宗教的な価値を見出すこと、すなわち自分の中に存在するすべての能力と感性を、総合的に育成することが重要なのです。

新入生の皆さん、大学での生活は人格形成のため

の大切な機会です。優れた人格を持つ人になるために、このキャンパスで準備してください。しっかりと専門的な知識を身につけながら、あなたたち自身の人生を精神的な価値に基づいて築くための努力をしてください。そうすることによって、今、青春期に抱いている夢と希望が、人生を通じて実現されるのです。大学で培ったあなた方の命が、これからの長い人生を通じて、質の高い幸せな生活を過ごすことができると、私は信じています。本学は家庭的な雰囲気をもっていますので、その家庭的な雰囲気の中で、素晴らしい人格を形成するように努力して欲しいのです。

本学はまた、聖ドミニコ修道会の大学として、修道会の精神に基づいて、優れた人格を持つ人間の育成を目指しています。修道会の精神とは、一言で言えば「愛と真理」です。キリスト教的愛に基づいて生き、一生を通じて、真理を探究するということです。分りやすくいえば、「すべての人びとを大事にしながら生きること」です。何よりも、私たちは世界各地でおきている不公平や問題について沈黙してはなりません。特に、弱い人びと、色々な面で苦しんでいる人びと、貧しい人びと、テロのため苦しんでいる人びとを助けるために、思いやりの心をはぐくむ必要があります。それが『キリスト教的愛』です。そして、「自分と人びとの真の幸せを捜し求めて生きること」。「獲得した真理の幸せと喜びを他の人びとと共有すること」。それが『真理を探究する』ということです。

この精神は過去800年もの長い歴史の中で、聖ドミニコ修道会を支え、国際的な価値、普遍的な価値として認められたものです。聖ドミニコ修道会は設立してから来年800年になります。修道会はこの歴史的なイベントを祝うために3年前から準備してきました。創立者の聖ドミニコは、スペインのパレンシア大学の教授を務めた後、世界の人々に「愛

と真理」を伝達するために、南フランスで修道会を設立しました。その後、800年の間に全世界に広がって、多くの大学、研究所、学校などを設置してきました。この長い歴史の間、様々な分野で素晴らしい男性と女性を社会に送り出して来ています。偉大な聖人、学者、ローマ法王、社会的リーダーを世に送り出し、学問の修道会として知られています。

そして、本学の名前は聖カタリナです。聖カタリナは14世紀イタリアのシエナ市に生まれた女性です。彼女は若いときから聖ドミニコ修道会に入会していました。彼女は33才という若さで亡くなりましたが、その短い人生の中で、聖ドミニコ修道会の女性として、当時の全ヨーロッパに大きな貢献と影響を与えました。彼女の神秘的な思想、社会的活動と人生観は、いまでも多くの人々の人生の支えと模範になっています。

先ほど、朗読された聖書の箇所、イエスの弟子であるパウロは、人生の最高の道を教えています。それは愛です。愛は、幸福を得るための最高の道である。愛は決してなくなると教えています。また、聖カタリナは、「愛は認識に従うものであり、人間は愛しながら、真理に従い、真理をまとうよう努めます」と言っています。すなわち、人間は愛と真理を持っているときこそ、最高の幸せを味わうことが出来るということなのです。

皆さん、是非今日から、大学生として創造力を伸ばし、自分で考え、正しい判断と行動を実践できるような人間になってください。そして、自分の夢をかなえるために全力で学び、「愛と真理」という普遍的な価値に基づいて、すばらしい人格を築いてください。本学で恵まれた環境の中で楽しい生活を送ってください。これから始まる大学生活における、皆さんの健康と喜びをお祈りして、私の挨拶といたします。

## ◆◆ St. Catherine News ◆◆

### ●次期学部長・学科長の選任

聖カタリナ大学人間健康福祉学部においては、学部長 坂原明教授の任期満了（平成27年3月31日）にともない、次期学部長選挙を1月23日（金）に行い、恒吉和徳教授が選出されました。

任期は平成27年4月1日から2年間です。

聖カタリナ大学短期大学部保育学科においては、学科長 日野幸子教授の任期満了（平成27年3月31日）にともない、次期学科長選挙を1月16日（金）に行い、大上紋子教授が選出されました。

任期は平成27年4月1日から2年間です。

## ●松山市社会福祉協議会と災害ボランティア協定を締結

1月17日(土)に松山市総合福祉センターで松山市社会福祉協議会と災害時におけるボランティア活動に関する協定を締結いたしました。

調印式では、松山市社会福祉協議会の村上博会長とホピノ・サンミゲル学長が協定書を交わしました。

その後、本学学長の挨拶があり、阪神淡路大震災の復興応援歌「しあわせ運べるように」を松山市立清水小学校の児童と本学学生ら約250人で合唱しました。

今回の協定は、愛媛県内の大学として初めての協定締結で、松山市内で災害が起きた際に、学生がボランティア活動に積極的に参加できるようにすることを目的としており、今後、学生へ災害ボランティアの登録を呼びかけ、災害時の素早い復旧につながるよう協力いたします。



## ●愛媛銀行寄附講座・聖カタリナ大学「風早の塾」最終講義（総括シンポジウム）

1月30日(金)に愛媛銀行寄附講座「風早の塾」の最終講義（総括シンポジウム）が行われ、今年度の寄附講座は全日程終了いたしました。

学外から愛媛銀行頭取 本田元広氏をお招きし、学内からはホピノ・サンミゲル学長、下田 正 人間健康福祉学部教授、上田 稔 聖カタリナ学園法人事務局長にご登壇いただき、メインテーマの「幸福のコミュニティを求めて」にふさわしいシンポジウムになりました。

また、平成26年度の実施内容とは異なる内容で、平成27年度も引き続き寄附講座を開催いたします。

寄附講座は学生に加えて一般市民の皆様も自由に聴講できるようになっております。



## ●平成26年度 人間社会学科 卒業研究論文報告会を実施

2月13日(金)に平成26年度 人間社会学科 卒業研究論文報告会が開催されました。

卒業研究論文に関する発表について2つの教室に分かれて、口頭発表(社会学系)とポスター発表(心理学系)が行われました。

人間社会学科1期生が、大学4年間の学習の集大成としての研究成果を発表しました。

また、当日の参加者は、学生だけでなく教職員の参観もあり、多数の方に出席していただきました。



## ●学長と学生との懇談会（第14回）を開催

聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部では、2月13日(金)に平成26年度「学長と学生との懇談会（第14回）」を開催しました。

懇談会では、大学関係者として学長、副学長、人間健康福祉学部長、保育学科長、学生部長が出席し、学生と軽食をとりながら、リラックスした雰囲気の中で率直な意見交換を行いました。

この懇談会は、学生の声を直接聞くことによって、今後の教育改革や学生支援、さらには大学運営に役立てることを目的として毎年開催しています。

学生からは学習環境や授業内容に関することなど、学生生活の中で、学生が感じていることや要望等を、大学に直接伝えることができる有意義な機会となりました。

なお、学生から寄せられた意見・要望等については、今後学内で検討し、授業や施設・設備の改善等に反映していくことにしています。



## ●公益財団法人大学基準協会による大学評価結果(認証評価) 結果について

聖カタリナ大学は、公益財団法人大学基準協会の定める大学基準に適合していると認定されました。

認定期間は、2015(平成27)年4月1日から2022(平成34)年3月末日までの7年間です。



## ●平成27年度後援会奨励表彰

5月14日(木)、母をたたえる日の行事に併せ、後援会長から後援会奨励金の授与が行われました。この奨励制度は、在学生の学業成績優秀者に後援会から奨励金を授与し、さらなる勉学への励みとしてもらうものです。今年度の表彰者は以下の皆さんです。

花原 佳子さん(大学2年)

加賀山菜美さん(大学2年)

水岩 千秋さん(大学2年)

徳本美沙輝さん(大学3年)

羽藤 花恋さん(大学3年)

富谷 雅貴さん(大学3年)

松本 真弥さん(短大2年)

宮宇地耕介さん(短大2年)

◆◆ 平成 26 年度後期行事 (H26.10.1 ~ H27.3.31) ◆◆

月	日	曜	区	行 事
10	1	水	短	幼稚園教育実習協議会
	2	木		前期未卒業証書授与式
	3	金	大	教授会、社会福祉学科会議
			短	教授会
	5	日	大	A O 入試面接、外国人留学生入試(指定校)、入試・募集委員会
			大	編入学試験(一般 I ・提携 I ・指定校推薦)
			短	A O 入試面接、外国人留学生入試(指定校)、入試・募集委員会
	6	月	短	教授会
	7	火		財務委員会
			大	教授会
	9	木	大	実地調査(大学基準協会)(～10/10)
	10	金	大	寄附講座⑨「風早の塾」、人事委員会
			短	保育学科会議
	13	月		おでかけキャンパス in エミフルMASAKI
	14	火		図書館委員会
	15	水		キリスト教研究所フォーラム、キリスト教研究所所員会
	16	木		理事長講話、パイプオルガン演奏会実行委員会、サルテー運営委員会
	17	金		大学訪問(新田高校 P T A ・教員)、教学マネジメント会議
			大	就職委員会大学部会、まつやまシニアカレッジ
	18	土		理事会、大学訪問(宇和高校 P T A ・教員)
	20	月		S D 委員会
	21	火		大学訪問(聖カタリナ女子高校)
			短	大学改革申請委員会
	22	水		広報委員会
	23	木		学生生活委員会、パイプオルガン演奏会実行委員会
	24	金		大学祭(～10/27)、寄附講座⑨「風早の塾」
			大	人事委員会
	29	水		教務委員会
	30	木	大	大学コンソーシアムえひめインターンシップ部会
	31	金		人間文化研究所フォーラム
			大	まつやまシニアカレッジ、人間社会学科会議
11	2	日	大	推薦入試
			短	推薦入試
	4	火	大	教授会、入試・募集委員会
			短	保育実習[保1](～11/15)、入試・募集委員会
	5	水		大学訪問(北条高校)、広報委員会
			短	教授会
	7	金	短	教授会、保育学科会議
	8	土		風早レトロまつり
	10	月	大	教務委員会大学部会
	12	水		キリスト教研究所フォーラム
	13	木		S D 委員会
			大	健康スポーツ学科会議
	14	金		財務委員会
			大	寄附講座⑩「風早の塾」、まつやまシニアカレッジ、教授会、選考教授会
			短	大学改革申請委員会
	18	火	大	人間社会学科会議
	19	水	大	社会福祉学科会議
	20	木		I R 推進委員会
	21	金	大	寄附講座⑩「風早の塾」
	25	火		奨学制度運営委員会
	26	水		財務委員会
	27	木		保健講話、学生生活委員会、F ネット(社長と学生の交流会)
	28	金		中長期経営計画委員会
			大	寄附講座⑩「風早の塾」、人事委員会、大学評価委員会
			短	大学改革申請委員会

月	日	曜	区	行 事
11	29	土		評議員会・理事会
12	3	水		S D 委員会
	4	木		入試・募集プロジェクト会議、国際交流委員会
	5	金	大	教授会、教学マネジメント会議
			短	教授会
	6	土	大	推薦入試(一般)、社会人入試、入試・募集委員会
			短	推薦入試(一般)、社会人入試、入試・募集委員会
	9	火	大	教授会、人事委員会
	10	水		キリスト教研究所フォーラム、キリスト教研究所所員会
			短	教授会
	11	木		大学訪問(北宇和高校)
	12	金	大	健康スポーツ学科会議
			短	保育学科会議
	14	日		オープンキャンパス
	15	月		ボランティアセンター講演会
	17	水		図書館委員会
	18	木		サルテー運営委員会
1	19	金		学内クリスマス、ボランティアセンター運営委員会、入試・募集委員会
			大	精神保健福祉援助実習報告会・連絡会、選考教授会、人間社会学科会議
	20	土		理事会、冬季休業開始
	22	月		コンベンシア
	26	金		事務職員研修
	7	水		財務委員会、奨学制度運営委員会、冬季休業終了
			大	大学評価委員会、経済支援学生選考委員会
	8	木	大	学生生活委員会
	9	金	大	教授会
			短	教授会、保育学科会議
	16	金		将来計画委員会、財務委員会
			大	寄附講座⑩「風早の塾」、人間社会学科会議
			短	保育学科長選挙
	19	月	大	就職委員会
			短	幼稚園教育実習[保1](～1/30)
	21	水		キリスト教研究所フォーラム
2	22	木	大	健康スポーツ学科会議
	23	金		就職ガイダンス
			大	人間健康福祉学部長選挙、大学評価委員会
	24	土		評議員会・理事会
	28	水	大	社会福祉学科会議
	29	木		ギャラリ－見学(聖カタリナ大学短期大学部附属幼稚園)、S D 委員会
	30	金	大	寄附講座⑩「風早の塾」
	3	火	大	後学期授業終了
	4	水	大	後学期試験(～2/10)、大学コンソーシアムえひめインターンシップ部会
	6	金		人間文化研究所公開セミナー
			短	教授会、人事教授会、保育学科会議
	7	土	大	一般入試
			短	一般入試、社会人入試、外国人留学生入試
	10	火		国際交流委員会
			大	教授会、人事委員会、入試・募集委員会
			短	後学期授業終了、教授会、入試・募集委員会
3	12	木		理事長ヒアリング
	13	金		第14回「学長と学生との懇談会」
			大	教授会
	16	月	大	介護福祉実習[介2](～3/13)
	17	火	大	介護福祉実習[介3](～3/16)、一般入試、教授会、入試・募集委員会、人間社会学科会議
	18	水		キリスト教研究所フォーラム
			大	外国人留学生入試、編入学Ⅱ期



月	日	曜	区	行 事
2	18	水	短	教授会、入試・募集委員会
	19	木	短	実習懇談会
	20	金	大	人間文化研究所フォーラム、教学マネジメント会議、学生生活委員会
			大	教務委員会大学部会
	21	土		理事会
	23	月	大	精神保健福祉援助実習[社3]（～3/13）
			短	教務委員会短期大学部会、保育実習[保1]（～3/5）
	24	火	大	社会福祉学科会議
			短	保育学科会議
	25	水	大	教授会
	26	木	大	一般入試、健康スポーツ学科会議
			短	教授会、人事教授会、入試・募集委員会、一般入試
	27	金		財務委員会
			大	教授会、入試・募集委員会
	28	土		後援会役員会
3	3	火		入試・募集プロジェクト会議
			大	第三者評価委員会
	4	水		S D委員会
	5	木	短	保育学科会議
	6	金	大	経済支援学生選考委員会
			短	教授会

月	日	曜	区	行 事
3	9	月		教務委員会、パイプオルガン演奏会実行委員会
			短	保育実習[保1]（～3/19）、初心者ピアノ教室
	10	火	大	人間社会学科会議
	11	水	大	大学評価委員会
	13	金		奨学制度運営委員会
			大	教授会、社会福祉実習委員会
			短	教授会、入試・募集委員会
	14	土		卒業式
	16	月	大	教授会、入試・募集委員会、一般入試、健康スポーツ学科会議
	18	水		パイプオルガン演奏会実行委員会
	19	木		財務委員会
	20	金		内部監査、教学マネジメント会議
			大	人事委員会
	21	土		春のオープンキャンパス、春季休業（～3/31）
	24	火		入試・募集委員会、学生生活委員会
	25	水		新採用職員研修（～3/26）
			大	教職課程委員会
	26	木		学内合同企業説明会
	28	土		評議員会・理事会
	30	月		パイプオルガン演奏会実行委員会

## ◆◇ 平成 26 年度卒業生就職等進路状況 ◇◆

平成27年5月1日現在

### 1. 業種別状況

【聖カタリナ大学】

業 種 / 学 科		就 職 者 数			
		社会福祉	健康福祉	人間社会	合 計
企 業	建設／製造	1	0	2	3
	情報通信／運輸、郵便	0	2	2	4
	卸売、小売	8	12	15	35
	金融、保険	2	1	2	5
	サービス(宿泊、複合他)	4	6	9	19
	その他(電気、不動産他)	2	1	4	7
	教育、学習支援	1	1	0	2
医療、福祉	医療、保健衛生(病院他)	3	2	1	6
	児童養護施設	1	0	0	1
	老人福祉施設	19	8	1	28
	身体障害者福祉施設	2	0	0	2
	知的障害者福祉施設	8	0	0	8
	精神障害者福祉施設	0	0	0	0
	その他(社会福祉協議会他)	6	0	0	6
公 務	国家公務員	0	2	0	2
	地方公務員	1	1	0	2

就 職 者 数	58	36	36	130
( 県 内 )	(52)	(30)	(29)	(111)
( 県 外 )	(6)	(6)	(7)	(19)
卒業生内訳				
就職未定者数	2	1	1	4
就職希望者数	60	37	37	134
就職率	96.7%	97.3%	97.3%	97.0%
進学決定者	0	0	1	1
家事・その他	8	5	6	19
卒業生数	68	42	44	154

【聖カタリナ大学短期大学部】

業 種 / 学 科		就職者数
		保 育
教 育 , 学 習 支 援	公立幼稚園	1
	私立幼稚園	28
	その他の教育、学習支援業	0
児 童 福 祉	公立保育所	6
	私立保育所・託児所	49
	児童福祉施設	1
	その他の児童福祉事業	0
	医療、福祉	1
医療、福祉	医療、保健衛生(病院他)	1
	その他の福祉、介護事業	0
企 業	卸売、小売	7
	宿泊、飲食サービス	1
	金融、保険	1
	その他(製造、サービス他)	1
公 務	国家公務員	0
	地方公務員	0

就 職 者 数	96
( 県 内 )	(96)
( 県 外 )	(0)
卒業生内訳	
就職未定者数	0
就職希望者数	96
就職率	100.0%
進学決定者	5
家事・その他	4
卒業生数	105

(6Pへ続く)

## 2. 職種別状況

【聖カタリナ大学】

職 種 / 学 科	就 職 者 数			
	社会福祉	健康福祉	人間社会	合 計
医療ソーシャルワーカー(MSW)	0	0	0	0
精神科ソーシャルワーカー(PSW)	2	0	0	2
相談員(社会福祉主事他)	2	0	0	2
支援, 相談(知的・身障・児童他)	15	0	0	15
介護福祉士・介護・支援, 相談(老人)他	20	7	1	28
その他の福祉専門職(保育士含)	0	0	0	0
教員(高等学校のみ)	1	0	0	1
事務	6	6	5	17
販売, 営業	6	13	20	39
その他(サービス, 保安, 生産他)	6	10	10	26
合 計	58	36	36	130

【聖カタリナ大学短期大学部】

職 種 / 学 科	就職者数
	保 育
幼稚園教諭	29
保育士	57
その他の教員	0
社会福祉専門職業／介護サービス職業	0
事務	2
販売	6
その他(サービス職業／生産工程他)	2
合 計	96

## ◆◇ 平成 26 年度教授会議議題（後期） ◇◆

【聖カタリナ大学教授会議議題】

H26. 10. 3 第7回

1. 前期末卒業予定者について
2. 退学について
3. 復学について
4. 除籍について
5. 科目等履修生の受け入れについて
6. 聴講生の受け入れについて
7. 学長賞選考内規の改正について

H26. 10. 7 第8回

1. 平成27年度AO入試合格者選考について
2. 平成27年度外国人留学生特別入試指定校推薦合格者選考について
3. 平成27年度第3年次編入学国際提携校推薦入試合格者選考について
4. 平成27年度第3年次編入学提携校推薦入試Ⅰ期合格者選考について

H26. 11. 4 第9回

1. 平成27年度指定校推薦入試合格者選考について
2. 平成27年度専願推薦入試合格者選考について
3. 平成27年度スポーツ特別推薦入試合格者選考について
4. 学長賞選考内規の改正について

H26. 11. 14 第10回

1. 学則別表の一部改正について
2. 平成27年度学年暦について
3. 退学について
4. 除籍について
5. 履修科目の登録の特別許可について

H26. 12. 5 第11回

1. 学長賞の選考について
2. 学部長候補者選考に係る選挙管理委員の選出について

H26. 12. 9 第12回

1. 平成27年度スポーツ特別推薦入試Ⅱ期合格者選考について
2. 平成27年度一般推薦入試合格者選考について

H27. 1. 9 第13回

※報告・連絡事項のみ

H27. 2. 10 第14回

1. 平成27年度一般入試A日程合格者選考について
2. 学生の懲戒について

H27. 2. 13 第15回

1. 新学科の設置計画について
2. 学則の一部改正について
3. 退学について

H27. 2. 17 第16回

1. 平成27年度大学入試センター試験利用入試前期合格者選考について
2. 平成27年度第3年次編入学提携校推薦入試Ⅱ期合格者選考について

H27. 2. 25 第17回

1. 卒業判定について

H27. 2. 27 第18回

1. 平成27年度一般入試B日程合格者選考について

2. 卒業式の代表者選考について
3. 人間健康福祉学部カリキュラムポリシーの一部変更について

H27. 3. 13 第19回

1. 学則の一部改正について
2. 聖カタリナ大学教授会規程の一部改正について
3. 卒業の認定について
4. 進級判定について
5. 転学科について
6. 退学について
7. 休学について

H27. 3. 16 第20回

1. 平成27年度一般入試C日程合格者選考について
2. 平成27年度大学入試センター試験利用入試後期合格者選考について

【聖カタリナ大学短期大学部教授会議議題】

H26. 10. 6 第7回

1. 平成27年度AO入試合格者選考について

H26. 11. 5 第8回

1. 平成27年度指定校推薦入試合格者選考について
2. 平成27年度専願推薦入試合格者選考について

H26. 11. 7 第9回

1. 平成27年度学年暦について
2. 学長賞選考内規の改正について

H26. 12. 5 第10回

1. 学長賞の選考について
2. 学部長候補者選考に係る選挙管理委員の選出について

H26. 12. 10 第11回

1. 平成27年度一般推薦入試合格者選考について

H27. 1. 9 第12回

1. ディプロマ・ポリシーの一部改正について

H27. 2. 6 第13回

1. 学則の一部改正について

H27. 2. 10 第14回

1. 平成27年度一般入試A日程合格者選考について

H27. 2. 18 第15回

1. 平成27年度大学入試センター試験利用入試前期合格者選考について

H27. 2. 26 第16回

1. 卒業判定について
2. 平成27年度一般入試B日程合格者選考について
3. 平成27年度社会人特別入試Ⅲ期合格者選考について
4. 復籍について

H27. 3. 6 第17回

1. 学則の一部改正について

2. 聖カタリナ大学短期大学部教授会規程の一部改正について

3. 卒業の認定について

H27. 3. 13 第18回

1. 平成27年度大学入試センター試験利用入試後期合格者選考について

# ◆◆ 平成 26 年度学校法人聖カトリナ学園決算概要 ◆◆

## ■ 1. 資金収支決算

資金収支決算は、資金収入が42億28百万円（予算比+ 4 億44百万円）、資金支出が36億60百万円（予算比△ 1 億 1 百万円）となりました。結果、差額 5 億67百万円を前年度繰越支払資金19億61百万円に加算し、次年度繰越支払資金は25億28百万円となりました。

■資金収支計算書：当該会計年度の諸活動に対応するすべての収入及び支出の内容並びに当該会計年度の支払資金（現金&いつでも引き出すことのできる預貯金）の収入及び支出の順を表します。

## ■ 2. 消費収支決算

消費収支決算は、帰属収入が36億19百万円（予算比+30百万円）、基本金組入額が97百万円（予算比△10百万円）となり、その結果、消費収入は35億21百万円（予算比+39百万円）となりました。一方、消費支出は35億59百万円（予算比△96百万円）となり、当年度消費収支差額は△38百万円（予算比+ 1 億35百万円）となりました。この結果、翌年度繰越消費支出超過額は、35億15百万円の予算に対し、決算では33億80百万円となりました。

■消費収支計算書：当該会計年度の消費収入及び消費支出の内容及び均衡の状態を表します。一般企業会計の「損益計算書」に当たります。

## ■ 3. 貸借対照表

貸借対照表は、本年度末（平成27年 3 月31日）において、資産の部148億11百万円、負債の部12億64百万円、基本金の部169億27百万円、消費収支差額の部における翌年度繰越消費収支差額は△33億80百万円となりました。なお、資産総額から負債総額を減じた「正味財産額」は、135億47百万円です。

■貸借対照表：一定時点（本学は3月末現在）の資産及び負債、基本金、消費収支差額の内容及び在り高を明示し、財産の状態を表します。

### \* 参 考 \*

学校法人は、一般事業法人と異なり、利益の稼得を目的にした組織ではありません。学生生徒や社会に対して、教育研究活動を通じた人材育成という崇高な使命を負った社会性、公共性の高い存在です。しかしながら、経営という視点を欠き、過大な設備投資や場当たり的な運営が続いていると、収入と支出のバランスを失い、経営基盤の不健全化を招いてしまいます。こういった事態を防ぐために、経営の実態を会計面から適時、的確に把握できるよう一定の会計処理ルールが定められています。それが、昭和46年に文部省令第18号として制定された「学校法人会計基準」です。学校法人は、この「学校法人会計基準」に従って計算書類を作成することが義務づけられています。なお、会計基準が一部改正され、平成27年度より新・学校法人会計基準が施行されます。\*\*\*\*\*

（注）表中数字の単位は、「百万円」です。  
百万円未満は四捨五入して記載しています。

科 目	予 算 (a)	決 算 (b)	増 減 (b)-(a)
前年度繰越支払資金	1,961	1,961	—
当年度			
資金収入	3,783	4,228	444
資金支出	3,761	3,660	△ 101
収支差額	22	567	545
次年度繰越支払資金	1,983	2,528	545

科 目	予 算 (a)	決 算 (b)	増 減 (b)-(a)
①帰属収入	3,589	3,619	30
②基本金組入額(△)	107	97	△ 10
③消費収入①-②	3,482	3,521	39
④消費支出	3,655	3,559	△ 96
当年度消費収支差額 ③-④	△ 173	△ 38	135
前年度繰越消費 収支差額	△ 3,342	△ 3,342	—
翌年度繰越消費 収支差額	△ 3,515	△ 3,380	135

科 目	本年度末 (a)	前年度末 (b)	増 減 (a)-(b)
資産の部			
固定資産	11,975	12,537	△ 561
流動資産	2,836	2,290	545
資産の部合計	14,811	14,827	△ 16
負債の部			
固定負債	613	687	△ 74
流動負債	651	653	△ 1
負債の部合計	1,264	1,340	△ 75
基本金の部			
基本金	16,927	16,830	97
消費収支差額の部			
翌年度繰越消費 収支差額	△ 3,380	△ 3,342	△ 38
負債、基本金及び消費 収支差額の部合計	14,811	14,827	△ 16

# ◆◆ 人 事 ◆◆

《平成26年12月31日付け》

【退職】

総務課

技術職員(非)  
保育学科カトリナ子育て支援ひろば担当  
丸山 恵理

《平成27年3月31日付け》

【退職】

人間健康福祉学部

教授 下田 正  
講師 安藤 浩範  
講師 高木 寛之

保育学科

教授 酒井 一郎  
教授 三好 幸夫  
助教 米野 吉則

図書課

課長

菊地 幸雄

総務課

事務職員

公原 裕美子

会計課

用務員(非)

和田 秀子

総務課

技術職員(非)

保育学科カトリナ子育て支援ひろば担当

本田 智恵

技術職員(非)

保育学科カトリナ子育て支援ひろば担当

白石 直美

《平成27年4月1日付け》

【新規採用】

人間健康福祉学部

教授

桂 和仁

講師

今川 弥生

助教

村上 佳子

保育学科

講師

仲野 由香利

講師

遠藤 文子

助教

尾海 あかり

総務課

事務職員

名村 文

入試課

事務職員

品部 真佑

学生支援課

事務職員(養護)

坂井 泰子

会計課

用務員(非)

白方 文造

総務課

技術職員(非)

保育学科カトリナ子育て支援ひろば担当

松岡 由花

【昇任】

人間健康福祉学部

准教授

森平 准次

准教授

高杉 公人

入試課

課長

新名 敏弘

【配置換】

図書課

課長

長戸 洋次

入試課

事務職員

中村 太亮

就職課

事務職員(非)

木邨 貴子

## ◆◆ 新任教員紹介 ◆◆

かつら かずひと  
桂 和仁

- ①筑波大学大学院修士課程体育研究科修了
- ②聖カタリナ大学人間健康福祉学部 教授
- ③カウンセリング、人間関係論、健康心理学、心理学概論、臨床心理学、健康心理カウンセリング演習、基礎演習Ⅱ、専門演習、卒業研究
- ④平成27年4月1日

なかの ゆかり  
仲野 由香利

- ①愛媛大学大学院医学系研究科看護学専攻修士課程修了
- ②聖カタリナ大学短期大学部保育学科 講師
- ③子どもの保健Ⅰ-a・b、保育内容(健康)、保育内容(人間関係)、保育者論
- ④平成27年4月1日

いまがわ やよい  
今川 弥生

- ①日本大学文理学部英文学科卒業
- ②聖カタリナ大学人間健康福祉学部 講師
- ③栄養学、栄養と生活習慣病、健康栄養学、スポーツ栄養学
- ④平成27年4月1日

えんどう みみこ  
遠藤 文子

- ①兵庫教育大学大学院学校教育研究科教育実践高度化専攻修了
- ②聖カタリナ大学短期大学部保育学科 講師
- ③教育相談、障害児保育、保育実習指導Ⅰ・Ⅲ、保育相談支援、保育実習Ⅰ
- ④平成27年4月1日

むらかみ よしこ  
村上 佳子

- ①日本福祉大学大学院社会福祉学研究科社会福祉学専攻修士課程(通信教育)修了
- ②聖カタリナ大学人間健康福祉学部 助教
- ③基礎演習Ⅱ、精神科ソーシャルワーク論、精神保健福祉援助演習(基礎)・(専門Ⅰ・Ⅱ)、精神保健福祉援助技術各論Ⅰ・Ⅱ、専門演習、卒業研究、精神保健福祉実習指導、精神保健福祉現場実習
- ④平成27年4月1日

おうみ あかり  
尾海 あかり

- ①桐朋学園大学音楽学部演奏学科卒業
- ②聖カタリナ大学短期大学部保育学科 助教
- ③音楽実技Ⅰ・Ⅱ
- ④平成27年4月1日

## ◆◆ 研究室探訪 ◆◆

聖カタリナ大学  
人間健康福祉学部 准教授 長尾 由希子



台湾静修女子出身のゼミのみなさんとクリスマスが近かったのでゼミ後にお茶会

大学教員の仕事とは何か、大学組織外の方々には十分に伝わっていない気がします。しかし現在では、それをわかりやすくお伝えすることが求められているとも感じます。そこで、私を例にしながら、大学教員の仕事についてお話ししたいと思います。

大学教員というと、「大学で教えている」という漠然としたイメージはあるかもしれませんが、内輪では、大学教員の仕事には、「教育」と「研究」の2つがあるとされています。このような大学の在り方のモデルは、19世紀のベルリン大学を創設したフンボルトに由来するとかそうではないとか言われていますが、ここで言いたいことは、かなり前から現在にいたるまで、「教育」と「研究」という2つの仕事キーワードになっているということです(興味のある方は、「フンボルト理念」をキーワードにお調べになるか、潮木守一先生の著書などをお読みください)。

たとえば、私は、大学に課された授業としては、社会調査に関連することや、社会学の個別領域の授業などを担当しています。授業には、講義を聴く形式のものや、演習や実習という学生さんの主体的な取り組みがより強調されるものなど、いろいろな形態があります。また、聖カタリナ大学にはアドバイザー制度という担任の先生のような制度があり、学生さんの相談に乗ったり、授業の履修のペースなどをアドバイスしたりということがあります。これらが「教育」にあたり、学生さんや保護者の方々から見えるのは、この部分がほとんどです。

他方で私は、青少年の進路や専門職志向などの個人的な関心を調査・研究しています。それらの結果などは、興味関心が同じ集団組織(学会や研究会など)で報告し合ったり、専用の雑誌(学会や各大学で発行している冊子など)に報告したりします。これらが「研究」です。大学教員は、それぞれこの研究をしており、昔風に言えば「学者」というイメージにあてはまると思います。関心を共有する別の大学の教員どうしと一緒に研究(共同研究)をしたりもします。調査・研究にはお金がかかるので、国やどこかの団体に申請をして、意義が認められれば補助のお金(助成金)をいただくことができます。文系よりも理系の方が調査・研究にお金がかかる傾向があるので、特に理系では、助成金の獲得が死活問題になっています。

細かくみれば、大学教員の実際の仕事は「教育」と「研究」以外にもあります。広い意味での「教育」と言えるかもしれませんが、校務(学務)や大学以外での仕事(社会的活動)です。

児童生徒が学校内で生き物係(委員)や図書係(委員)などを分担しているように、大学内でも各種委員会などの組織や、分担している役割があります。これが校務(学務)です。委員会は、教員と事務職員が一緒に担当し、学生のみなさんが過ごしやすいように、大学がよりよくなるように、いろいろな工夫をしています。

大学以外での仕事(社会的活動)というのはいろいろありますが、たとえば、愛媛県が行政を円滑に進める上で、会議でいろいろな領域の人に意見を聞くことがあり、そこに大学教員が加わったりもします(行政会議の委員)。企業と共同研究・開発をする人もいます。

「教育」と「研究」は完全に別のものというわけではありません。たとえば私はインターンシップの授業や大学内の就職委員なども担当しているため、これらは私にとっては教育領域でもあり研究領域でもあると言えます。そして、これらの担当に関連して、愛媛県から、たとえば雇用対策会議の委員を委嘱されたりします。

かつての大学教員は、どちらかといえば「教育」よりも「研究」に打ち込む傾向があったとされ、その反省のもとに、また、少子化と大学進学者の増加によって、現在では大学教員には「教育」にも「研究」にも取り組むことが求められています。「教育」の重視・強調は、多かれ少なかれ、どの大学でも、過去に比べて意識されています。これらを大学の「学校化」という観点で、その度合いや中身を問題にする見方もあります。

現在では大学教員の教育力は重視されていますが、かつては授業を面白おかしくする教員はチョーク芸人などと揶揄されていました。そういう意味では、私自身はパワポ芸人とか紙芝居屋さん寄りだと言えると思います。オフィスソフトの高度なスキルを駆使することはないのですが、社会学とか社会調査とか、わかりにくそうな領域を面白そうに伝えたり授業の工夫をしたりすることはとても大事だと思っています。でも、こうしたスタイルは、不思議なことに、オーディエンスに左右されます。学会で授業のときのようなスタイルで発表をしようかと思ったことがありますが、不思議と高校生や大学生を前にするのは全く違い、淡々としたスタイルになってしまうのです。なお、大学の教職員が教育研究・業務などの改善に取り組むための組織的体制も、現在ではどの大学でも多かれ少なかれあります(ファカルティ・デベロップメント(FD)、スタッフ・デベロップメント(SD))。

このように、授業以外のところで、大学教員や大学職員が取り組んでいることはいろいろあります。教職員をみかけたら、それぞれに取り組んでいる仕事の内容を想像してみると面白いかもしれません。ちなみに私は横浜の名づけ親ですが、それは仕事ではありません。

聖カタリナ大学・短期大学部学報  
〒799-2496 愛媛県松山市北条6 6 0 番地  
TEL 089-993-0702(代)  
<http://www.catherine.ac.jp>  
編集・発行  
広報委員会  
[kouhou@catherine.ac.jp](mailto:kouhou@catherine.ac.jp)